

令和4年度 苫小牧市図書館協議会定例会

令和4年5月26日（木）午後2時

苫小牧市立中央図書館 2階講堂

【議事】

- 議長 皆様、ご苦労さまです。久しぶりの集まっての会議ですけども、いろいろ質問や意見などありましたら、どうぞよろしくお願ひいたします。
それでは、まず、議事の1つ目、令和3年度事業報告についてご説明をお願ひいたします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議長 ありがとうございます。
それでは、今説明のありました令和3年度の事業報告について、ご意見やご質問がありましたらお願ひします。
電子図書館の利用の話がありましたが、利用数のような統計はないのでしょうか。
- 館長 資料2の8ページ目に「電子図書館利用状況」がありまして、そこに統計をお示ししております。
- 議長 ありがとうございます。
皆さん、事業報告についてどうでしょうか。
- 委員 このアンケートの中に、予約の際に携帯でこういうことができないか等、いろいろとご意見がありましたが、それに対して、現在は皆さんの意見をできるだけ集める状態で、すぐにはできないというふうに読み取りました。
やはりこのスマホの時代に、わざわざ図書館に来なくても手続きなどを全てネットでできるようになるような方向は目指しているのでしょうか。
- 館長 そういうサービスも必要だとは認識しておりますが、システムの関係もありますので、そこも踏まえて今後検討してまいります。
- 議長 スマホだけじゃできないこともあるんですね。
今はやっぱりスマホで予約するという流れになっていますので、今後また変化があることに期待しましょう。

ほかいかがでしょうか。

それでは、議題の2つ目の中央図書館の評価と点検についてです。評価と点検については、事前に委員の皆さんのお手元に評価シートが送られております。これから説明いただきます運営計画の1番から4番について、それぞれこの評価シートに記入していただいたものを私がお預かりして、それらを総合して協議会の評価というふうにしていく流れに今年もしたいと思っておりますので、記入のほうをどうぞよろしく願いいたします。これは期日を決めて事務局のほうに提出いただいたものを私が預かるというふうにいたします。

それでは、評価と点検についてご説明をお願いいたします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議長 ありがとうございます。
- 運営計画の1番から4番、それから、単年度目標について説明をいただきました。それでは、運営計画の1番、2番、資料の7ページ、8ページですが、この2つのところでまず質問、意見などありましたらお願いします。
- こそだてtimeのBGMについて、木曜日の午前中という平日なのでなかなか自分で体感することができませんでしたが、アンケートの中にBGMの音が大きいのではないかというご意見がありました。この時間のことですよね。
- 館長 それ以外の時間につきましては、BGMは流しておりません。
- この1年間は試行錯誤をしております。現在は最初より若干音を小さくしております。最初もそんなに音量は大きくありませんでしたが、やはり一定数いろいろなご意見をいただきましたので、調整いたしました。
- 議長 そんなことはないと思っていましたが、アンケートを見ていると、すごく大音量で流れているようなご意見に見えましたので。
- あと、皆さんからいかがですか。
- 委員 他市との交流展示というところがありますけれども、宮城県栗原市とはどういう理由で今回取り上げられたのか、今後どういう理由でどういうところを取り上げていただくのか。
- 館長 こちらは、宮城県の栗原市でもラムサール条約があり、苫小牧市もウトナイ湖のラムサール条約がございますので、連携して展示ということで、こ

ちらからお声がけをさせていただきました。

- 委員 では、今後はどういうところを。
- 館長 今年度も道外の関連性のある図書館を検討中で、向こうのお返事を待っている状況です。具体的にどこ、というのは現在調整中でお答えできません。申し訳ありませんがご了承ください。
- 議長 では、運営計画3番、4番のほうはいかがでしょう。
- 委員 「ブックディレクターになりませんか」という事業ですが、お話を伺ったときにとってもいい話だなと思いました。今年もおそらく実施すると思いますが、たくさんの人に参加していただきたいと思いました。YA世代には直接会ってこうして自分の世界を皆さんに伝えるという形もあると思うので、できれば1回といわず2回以上やっていただけたらもっと広がるのではないかなと思っています。
- 館長 昨年度も年齢層に分けて3回実施しましたが、今年度も3回は実施する予定ですので、今後も継続してまいりたいと思います。
- 委員 3回というのは1つの年齢層ごとに1つでしょうか。
- 館長 はい。
- 議長 中高生は「ひとはことしょかん」というネーミングなんですか。
- 館長 5歳から小学生と、中学生と高校生まだが「ひとはことしょかん」というネーミングで、一般の方々が「ひとはことしょかん番外編ブックディレクターになりませんか」というネーミングになります。
- 議長 結構作り込んでいる方がいて驚きました。
もう1点お願いします。運営計画の4番ですね、ウェブアンケートサービスは、評価の関係のアンケートなのでしょうか。
- 館長 別紙につけさせていただいておりますが、資料1ー別紙3がウェブアンケートの実施結果報告になっておりまして、どのぐらいご利用になっているかなどをお尋ねし、半年に二、三回ですとか、回数が少なかった方にはその理由をご回答いただいております。
- 議長 性別、居住地、年代、どのぐらい利用しますかなどが調査内容なんですね。ウェブですから、これも広まればもう少し回答数が増えるのかなと思いますね。1回目だからそんなに多くなかったかもしれませんが。全体を通してほかいかがですか。
- 委員 10ページに司書派遣事業件数とありますが、この司書派遣というのは具体的にどこでどんなことをしたのでしょうか。

- 館長 こちらは例年行っており、小学校や中学校にご訪問し、調べる学習コンクールなどの説明や、ブックトーク、図書室の運営の方法についてのご相談などをお受けしております。ただ、昨年度はコロナということであまり外部の方を学校に入れないということもあったようで、件数は少なくなっております。
- 議長 実績は5点とも学校でしょうか。
- 館長 そうです。
- 議長 ほかはいかがですか。
- 委員 10ページにある「移動図書館を用いたアウトリーチサービス」ですが、これは保育園や団体をお願いをしたら来ていただけるサービスなのでしょうか。
- 館長 はい、そのようになっております。
- 委員 それは保育園まで来ていただけるのか、それとも最寄りの指定した場所に来てくださいというお願いをして、可能でしたら来てもらえるのでしょうか。また、本の貸出や返すときはどのような感じでしょうか。
- 館長 保育園のほうに直接伺って、貸出も行っております。保育園巡回というものを行っております、その巡回日程に合わせて返していただく形になっています。
- 議長 ほかはいかがですか。
- 委員 どの項目に当たるか分からないのですが、学校の図書室から公共図書館の本を探すようなことはやっていますか。
例えば、学校の図書室に行って借りようと思った本がなかったときに、その場ですぐ公共図書館のほうを調べて、そちらだったらありますよという案内などは行ってないのでしょうか。
- 館長 図書館システムが学校と公共図書館がつながっておりませんので。
- 委員 つながっていなくても、その場所から検索ができるようになればいいと思うのですが。
- 館長 学校図書館にネット環境があれば、中央図書館のホームページから検索はできますのでそちらをご活用いただければと考えております。
- 委員 それは学校司書の方は知っているのでしょうか。
- 館長 図書館システム同士がつながっていないことや中央図書館のホームページから本の検索ができることは、学校司書の方々もご存じかとは思いますが。
- 委員 初めから公共図書館で本を借りようと思っている人は、図書館へ行けばいい

いと思いますが、例えば小さい子どもや小学生などがどこに一番本を借りに行くかといったら、大体学校図書館か近くのコミセンの図書コーナーだと自分は思っています。そうしたら、そこに行って本がなかったら、ありませんでしたねって終わるのではなくて、ここにはないけれども図書館に行けばあるということがその場ですぐ分ければ、じゃあ、親に言って連れていってもらおうかなとか、そういうような話とかも出てくるでしょう。なので、今はそこで切れてしまって、つながっていないということですね。

○議長 私も学校の関係なのですが、仕組みとしてはないですね。学校司書さんの個人的な判断で、学校にないけれど、ぱっと調べて図書館にあるよって教えてくれる方もいますし、図書館からリクエストして、学校に持ってきてもらうこともできますよということを書いてくれる方もいます。でも一切そういうことを触れない方もいます。

○委員 そういう方が増えてくれれば図書館の利用も今後増えていくわけでしょう。自分もPTAから来ているので、やはり親の目線だとそういう仕組みが欲しいなと思います。

自分も東のほうに住んでいるので、正直、図書館までは本を借りに行くことはほぼないです。やはり目的があれば行くわけですから、その目的というのが何かというと、何か本が見たいなと思って行くか、もしくはこの本が見たいなと思って行くですとか。そういう間口を広げるような仕組みがあるのかなと思ってお聞きしました。

○議長 正式なものとしてはないということですね。

○委員 今後に期待です。

○委員 10ページの4の2ですね、職員の知識・技術・能力の育成と継承というところですけども、たくさんの方をされているようですけども、これは何名くらいの方がこれをやられて、どういう効果があったのかということをお聞かせいただければと思います。

図書館の方がどれくらい参加されて、どんなことを学ばれたというのがちょっと興味ありまして。

○館長 毎月、館内整理日に研修を行っております。そのほかにもリモートや外部研修で年に22回、研修を行っております。その時々によって全員だったり、外部研修だと1・2名の参加をしております。

○委員 いわゆる向上の成果みたいところはどんなところで推しはかることができるのでしょうか。例えば展示物でその成果を表して、こんな展示物を作

りましたとか、何かそういうものが具体的にあるのかどうかという質問です。

○館長 例えば資料に記載はしてありませんが、2月10日に福音館書店さん主催の児童担当者向けのウェブセミナーがあり、スタッフ3名が参加しておりますが、そこでベストセラーの絵本についてのお話を聞いて、児童コーナーで展示を作ったりなどもしておりました。そういった成果は出ていると思っております。

○議長 福音館書店さんがやっているんですね。

○館長 はい。今本当にウェブ研修が増えまして、いろいろな出版社さんや道立図書館などもウェブ研修を行っており、そこにスタッフが参加する形になっています。移動にかかる時間が減りましたし、東京などには行くことがなかなか難しいので、それがウェブになると3名くらい参加したりできますので気軽に参加できるようになりました。そういうウェブの研修も本社のほうから情報をいただいてスタッフが研修を受ける形で、幅は広がっていると思います。

○議長 ほかいかがですか。

それでは、令和4年度事業計画についてご説明をお願いします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

○議長 ありがとうございます。何か、質問やご意見等はあるでしょうか。アンブレラスカイとは何でしょうか。

○館長 アンブレラスカイはビニール傘を天井高くつるして、下から見るというデザイン性のある展示になります。昨年も予定しておりましたが、アートフェスが中止になりまして実施を見送ったところ、先に市民活動センターさんがされておりました。それを今年実施したいと思っております。

○委員 63番の「図書館を駆け抜けろ!」、一見本など関係ない気がしますが、これは図書館の中を走りながら走り方の指導を受けられるという意味ですか。

○館長 読書と実践を兼ねたイベントで、まずは走るという仕組みについて絵本で読み聞かせ等をし、インストラクターの方に実践していただいて体を動かす、という参加型の事業になっております。図書館の前に公園がございますので、その一角をお借りします。

- 委員 イベントがたくさんあって、ネーミングもとてもすてきなんですけども、たくさんををされようとする、一番基本になるのは、財政的な問題もあるのかなと思います。その観点からいきますと、企業内努力もありますけれども、これは市の予算でやるのですよね。それでいくと、予算との関係もあろうかと思うのですが、どれぐらいの予算で行っている、というのはお聞きしてもいいですか。
- 館長 予算は指定管理費の中で実施しております。
- 委員 たくさんあるわけですね。
- 館長 あんまりないです。創意工夫しております。当館単独で呼ぶと、やはり北海道ですので交通費や宿泊費などがかかってきます。道内のほかの図書館と連携することでその部分を折半するなどの工夫はしております。
- 委員 分かりました。その情報はやはりお互いがお持ちなんですね。
- 館長 横とのつながりや人脈ですとか、弊社は受託館を全国で多く運営しておりますので、たとえば、弊社の違う図書館で講演していいという作家さんがいらっしゃいましたら、その方に声をかけていただいたりですとか、呼びたい作家さんの講演の可否を本社の担当に聞いたりなどしております。
- 議長 ほかどうですか。
- では、先ほど昨年度の評価と点検のときに、11ページの単年度目標のところを触れてなかったのでも結構です。全体を通して何かありましたらお願いします。
- この11ページに関して、2022年度目標は資料としてありますか。
- 館長 資料としてはつけておりません。
- 議長 それは出さないものなのでしょうか。目標だから何かあったほうが良いと思います。
- 館長 はい、そうですね。今回は掲載しておりませんので来年度には掲載するよういたします。
- 次長 数値目標自体はあるんでしょう。
- 館長 5年計画がありますので、数字としてはあります。
- 議長 5年計画でしたら、基準値は変わらないんですね。目標値は5年間分を、最初の年にもう決めてるのですか。
- 館長 はい。
- 次長 去年、実績低かったからといって、目標値を変えとかじゃなくて、もう5年で決まってることだということ。

- 館長 はい、もう5年で決まっておりますので、新型コロナの影響があったとしてもこの目標値は変わりません。
- 議長 少しでも去年よりもたくさんの人たちが来館したり本借りたりしていければいいなというふうに思いますね。
- 委員 先ほどお話に出ていた、学校図書館の司書さんと公共図書館との関わりについてですが、先ほど委員がおっしゃったとおり、学校図書館で子どもが本を借りたいときに学校司書さんが公共図書館につなげてくれたら、もっと利用者が増えるということを感じました。学校司書と公共図書館司書との情報の交換、例えば学校の教科書で載っている作家さんの本が図書館のここにこれだけあるというような情報共有がお互いにできたら、小学校から高校生くらいの若い人たちが図書館を利用するきっかけにつながっていくのではないかと感じましたので、そういう取組なんかもあったらいいなと思いました。
- 議長 学校図書館支援事業という、調べ学習などの本の紹介や団体貸出などをずっと司書さんはやってくさっていますが、それとは別に学校司書さんとのつながりというあたりのご意見ですね。
- 委員 そうですね、図書館も先ほどおっしゃっていたように、図書館につながるような取組をできるだけしてもらえるように、司書さんに働きかけたり情報を提供したりとかというのがあってもいいと思います。先ほども言ったように教科書に載っている作家さんの本のリストを学校図書館で手渡しできれば、そこからさらに別の本につながるなど、若い人たちも図書館に行くきっかけができるんじゃないかなと思ったんです。
- 議長 とてもありがたいご意見だなと思って聞いていましたけども、それはそういう取組もできればいいですねというお話ですね。
- 館長 ブックちゃんなどでも学校とは協力して学校とは協力しておりますが、さらにというところですよ。
- 委員 図書館の電子化が進んでいくと思うんですけども、この図書館で特に採用したい部分と、これだけは電子図書館じゃなくって現物の図書のほうがいいんだよみたいな方針とか将来性とか、そういったところはいかがなものなんでしょうか。
- 館長 例えば図書館では資格取得関係の本は年によって変わっていくので置かない、という方針がありますが、やはりそういう資料も見たいという方々もいますので、書き込み式などの資料は電子図書館のほうで対応できればな

と思っております。

あとは、紙媒体というものは図書館としては大切ですし、保管、所蔵する機能も図書館としては持っております。郷土資料関係などは紙媒体できちんと保管・保存していくという役目も果たしていきたいと思っております。

○委員 キャパ的には大丈夫なんですか。電子媒体化していかないといけないという状況ではないと。

○館長 キャパシティにも限りはありまして、そこも踏まえて電子媒体化も考えております。特に新聞などは大きくかさばるものですので、保存も必要ですがそういうところはやはり電子化へ移行が必要なのかなとは思っております。

○議長 資格取得の本なんかは図書館には置かないんですね。そういうものは電子のほうがやりやすいですね。

○館長 需要あるとは思っておりますので、紙で置かないものは電子で、ということも考えていきたいと思っております。

○議長 ほかいかがですか。よろしいですかね。

では、本日の議事についてはこれで終了いたします。皆様のご協力大変ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

閉会 (午後3時10分)

<出席者>

○委員

松井操人	会長
赤川明美	委員
奥村訓代	委員
亀山仁美	委員
佐藤天亮	委員
原口祐子	委員

○事務局

教育部	部長
同	次長
生涯学習課	課長
同	主査
中央図書館	館長
同	副館長

<欠席者>

○委員

一谷誠子	副会長
------	-----

松 田 奏 保 委 員
八 島 恵利子 委 員